

## ■ 苫小牧港港湾計画の輕易な変更 —西港区本港地区の土地利用計画の変更—

苫小牧港管理組合 施設部 計画課

### ●はじめに

苫小牧港は、昭和38年4月に石炭の積出し港として開港した比較的若い港ですが、紙や自動車部品、石油精製などの生産活動や、札幌圏に近い恵まれた地理的条件を背景に発展を続けてきました。

現在では、北海道が取扱う港湾貨物の50%以上、外貿コンテナ貨物では取扱個数並びに取扱量がともに70%以上のシェアを占めるなど、苫小牧市に限らず北海道経済を支える大きな役割を担う国際拠点港湾となっています。



## ●苦小牧港西港区本港地区が抱える課題と対策

苦小牧港の内貿定期航路数は週 100 便を超えています。平成 26 年は約 8,900 万トンの内貿取扱貨物量となっており、平成 13 年から連続して全国 1 位となっています。

当港は、内貿取扱貨物量の 8 割以上をフェリーや RORO 船が占めていますが、定時性の確保が重要視されることから、運航時間の短縮を図るため、港口に近い西港区本港地区に集中しています。現在、当該地区ではフェリーの 4 航路(週 47 便)、RORO 船の 8 航路(週 30.5 便)にご利用いただいております。利用頻度の高いエリアとなっています。

このフェリーや RORO 船による海上輸送において、大きな役割を果たしているのがトレーラーシャーシの存在です。平成 26 年 3 月現在、苦小牧市で登録されているトレーラーシャーシの台数は 1 万 1 千台を超え、全国市町村の中で一番多い登録台数となっています。このことから、北海道と本州を結ぶ、多種多様で大量の貨物の効率的な輸送を可能としています。

さらに近年、海上輸送サービスの向上を図るため、フェリーや RORO 船の大型化が進められていますが、その一方で、当該地区におけるトレーラーのシャーシヤードが非常に逼迫している状況にあります。これは、トレーラーシャーシの横持ちによる荷役時間の拡大やコスト増に繋がるなど、深刻な問題となっています。

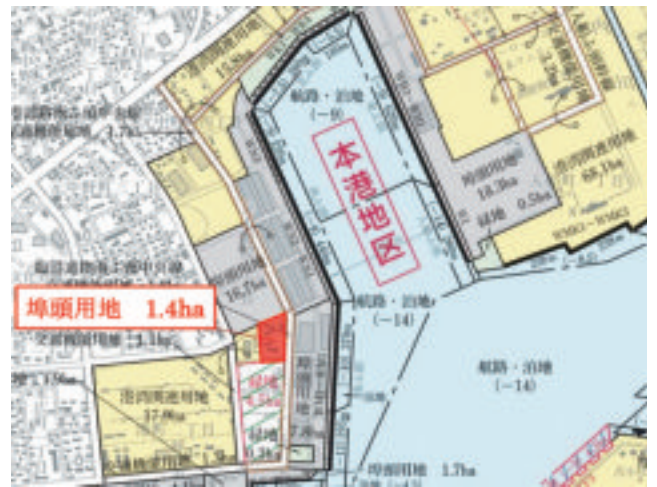
これらのことに加え、苦小牧港の発展と歩みをともしてきました民間会社社屋並びに苦小牧港管理組合庁舎ですが、建物の老朽化により平成 27 年 3 月、北ふ頭緑地に新たなビルを建設し移転致しました。このことにより、当該用地の活用方法が検討されてきたところです。

これらの課題を解決するため、西港区本港地区の港湾関連用地の一部(1.4ha)を、埠頭用地へ土地利用計

画の変更をすることで、トレーラーのシャーシヤードとして整備を行い、更なる港湾利用のサービス向上を目指します。

## ●苦小牧港港湾計画の軽易な変更

平成 28 年 1 月に開催した、「平成 27 年度 第 2 回 苦小牧港地方港湾審議会」において、苦小牧港港湾計画の軽易な変更について諮問し、適当と答申されました。これを受け、港湾法の規定に基づき、港湾計画を国土交通大臣に送付するとともに、港湾計画の概要を告示しました。



## ●おわりに

今回の港湾計画の軽易な変更によって、平成 28 年度より施設整備等を進め、港湾利用者の要望に答えていきたいと考えています。

今後も、攻めの港湾戦略を持ちながら、現状における課題の解決や、更なる港勢拡大に向けた取組みを進めていきたいと考えています。

